

JOMF 派遣医師便り (2015. 10)

◆ジャカルタ◆

乳がんについて (No. 1)

JJC 医療相談室

伊藤 通敏

ここジャカルタに、赴任する以前、京都&長野の病院にて、長年、乳がんの診断&治療を、診ていましたので、乳がんについての話です。

乳がんは、年々増加傾向にあり、日本の女性の12人に1人が、罹患する病気とされています。

特に、45～59歳の壮年期の女性に、多く見られます。

乳がんの多くは、乳房に、痛くない、しこりとして触れて見つかります。

しかし、何事にも、例外がありまして、乳がんのなかには、痛いしこりのこともありますし、また、しこりとして触れることができないこともあります。

しこりとして触れることができないがんとは、かたまりをなしていなく、非浸潤がんと言われています。

この非浸潤がんを見つけるには、マンモグラフィーという乳房専用のレントゲンを撮らないと分かりません。

マンモグラフィー撮影をして、砂をまいたように写る石灰化や、影の乱れ、腫瘍の影を、見つけます。

非浸潤がんは、触れもしないし、エコーでも分からないので、確定診断には、非浸潤がんと思われる部位から、マンモトームと言う装置を使って、細胞を取ってきて調べます。

このかたまりをなしていない、非浸潤がんの段階で、乳がんを見つけて治療すれば、ほぼ100%近く治ると言われています。

(100%近く治るがんは、他には、なかなかありません。)

非浸潤乳がんを、を見つけるために、マンモグラフィーが、検診で行われているのです。

しかし、残念ながら、多くの乳がんは、しこりとして触れる段階で、見つかります。

以上、今回は、乳がんの診察について、話します。